

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 4 報
千葉県農林水産部
令和2年6月29日

「コシヒカリ」の幼穂形成期も早まっています

ほ場をよく見て、穂肥や水管理等を適切に行いましょう

[生育概況]

6月中旬は、気温・日照ともに高く推移したことから、全体的に生育が進んでいます。4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月21日頃（平年より3日早い）から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっています。また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月27日頃（平年より4日早い）から幼穂形成期となります。4月20日に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は、出穂期15日前の冷害危険期に入っています。

6月25日気象庁発表の1か月予報では、期間のはじめは気温がかなり高くなる見通しであり、今後も生育が早まる可能性があるため、穂肥は幼穂長を確認して適期に施用しましょう。

表1 品種別の生育状況（6月25日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並	並	やや少	並
ふさこがね	4月20日	やや早	並	並	並
コシヒカリ	4月20日	やや早	並	並	やや淡
	5月1日	やや早	やや長	やや多	並
粒すけ	4月20日	並	並	並	並

※1 平年比は過去10か年（2010～2019年）の平均値との比較。

ただし、粒すけは過去5年（2015～2019年）のデータとの比較。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

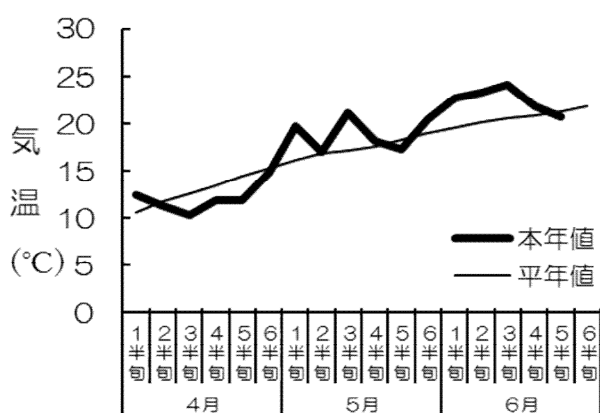


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

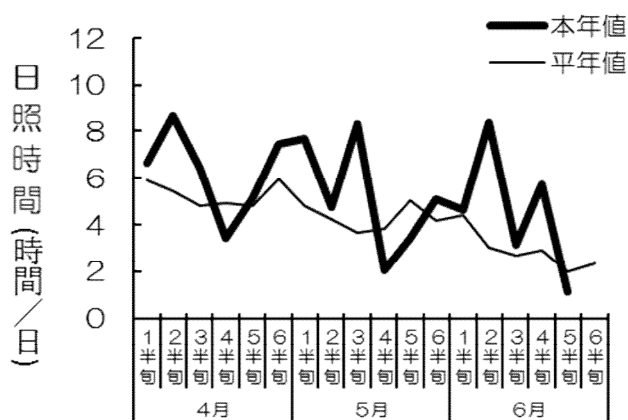


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 穂肥の実施

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
コシヒカリ	4月20日	6月25日	6月21日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長1cm～8cm】
	5月1日	7月1日	6月28日	6月27日	6月27日	
	5月10日	7月6日	7月3日	7月2日	7月2日	
粒すけ	4月20日	6月26日	6月22日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃 【幼穂長1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月27日頃～				幼穂形成期5日前頃～ 幼穂形成期5日後頃 (ただし、最高分けつ期 に葉色が低下した場合は、 すぐに追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月4日頃～				

(※) 幼穂形成期は、水稻作柄安定対策調査結果の実測値及び生育ステージ予測システム（令和元年度千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。

品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（「コシヒカリ」は房総南部の粘質土で窒素成分を2kg、「粒すけ」は粘質土で2kg）です。

近年、秋の長雨・台風により倒伏がみられます。「コシヒカリ」は、幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素を単肥で3kgが目安となります。

表3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD値) × 茎数 (㎡当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
16,000以下	560以下	490以下	440以下	70cm未満	籾数が不足し、やや減収	増肥、または時期を2～3日早める。		×
16,000～20,000	560～700	490～600	440～550	70～80cm	目標どおりの生育が期待 籾数確保のため穂肥は必要 稈長が伸び、倒伏が心配	標準量	標準	×
20,000～27,000	—	600以上	550以上	75cm未満 75～82cm	籾数過剰となり、乳白米の発生が心配 稈長が伸び、倒伏が心配	減肥（窒素施用量1～2kg/10a）して時期を遅らせるか、または無施用。		×
						×	×	必要

(※) カラースケール値とおおよその茎数 (㎡当り) の対応は、SPAD値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■ 中干し後の水管理（用水を大切に）

○出穂前後は湛水管理、低温時には深水管理

中干し後は間断かんがいをを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂期 3 週間前から出穂期 2 週間後までは湛水管理を行います。（自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です。）

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10 日～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため、深水管理にします。（表4を参照）

飼料用米の「アキヒカリ」は耐冷性が弱いため、特に注意しましょう。

表4 冷害危険期予測（冷害危険期は記載日から6日間）

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月25日	6月23日	6月23日	6月23日
ふさこがね	4月20日	6月26日	6月26日	6月25日	6月25日
コシヒカリ	4月20日	7月5日	7月1日	7月1日	7月1日
	5月1日	7月12日	7月8日	7月7日	7月7日
粒すけ	4月20日	7月6日	7月2日	7月1日	7月1日
アキヒカリ（飼料用米）	5月15日	7月7日頃～			

■ 斑点米カメムシ類の防除

○畦畔の草刈りは出穂期 2 週間前まで

出穂期前後の草刈りは、カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂期2週間前頃までに刈り取りましょう。

表5 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測（※）			
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	7月10日	7月8日	7月8日	7月8日
ふさこがね	4月20日	7月11日	7月11日	7月10日	7月10日
コシヒカリ	4月20日	7月20日	7月16日	7月16日	7月16日
	5月1日	7月27日	7月23日	7月22日	7月22日
	5月10日	8月1日	7月28日	7月27日	7月27日
粒すけ	4月20日	7月21日	7月17日	7月16日	7月16日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月22日頃～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月29日頃～			

（※）出穂期は、生育ステージ予測システム（令和元年度千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

○斑点米カメムシ類の防除適期は「穂揃期」と「出穂期 15 日後頃」

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期 15 日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、水田に侵入すると産卵し、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

また、カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所等から吸汁し被害を与えます。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、特に注意しましょう。

○飼料用米ほ場における防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができますが、籾米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、最新情報を確認してください。（（独）農林水産消費技術センター http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/21_658.html）

■ いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

いもち病は、止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では防除時期である出穂前に、薬剤防除をしましょう。

紋枯病は、莖数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年は飼料用米品種で発生がみられるので注意をしましょう。

表6 いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
カスミン 液剤		○治療		
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5				○
モンカット 粒剤/フロアブル				○

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月9日に発行予定です。